

松阪市 小・中学校施設のあり方市民討議会 アンケート結果一覧

平成29年2月5日開催

アンケート回収状況		
参加者数	回収枚数	回収率
50人	37枚	74%

Q1：性別・ご年齢などについて教えてください。

お住まい

松阪市内					三重県内	その他	無回答
本庁管内	嬉野管内	三雲管内	飯南管内	飯高管内			
22人	2人	1人	3人	1人	6人	0人	2人

年代

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答
0人	1人	2人	6人	15人	9人	2人	2人

性別

男性	女性	無回答
26人	9人	2人

職業

学生	会社員	自営業	公務員	議会関係	その他	無回答
0人	1人	1人	23人	2人	7人	3人



Q2：小・中学校施設のあり方市民討議会の開催をどのようにお知りになりましたか。（複数回答有）

広報 まつさか	ホーム ページ	テレビ	新聞	チラシ	その他
8人	13人	0人	0人	7人	13人

Q3：今回、小・中学校施設を対象に開催した討議会について、どう感じましたか。

意義がある	意義がない	どちらでもない	無回答
24人	2人	8人	3人

◎理由

意義がある

- 学校施設の協議はなかなか無かったのではないかな。
- 行政の考え方ではなく、市民の意見は大切だと思う。その上での討議ということは大切だと思う。
- 人口減少に伴い学校施設をどのように扱うかということは必ず検討しなければならない問題である。
- 小学校の老朽化とともに公民館も同様である。そんな中、将来構想として複合化というのは地域に生涯学習機能を存続させていく上においてヒントになる考え方だと感じた。
- 学校施設の地域開放の考え方や利活用法について、市民代表との意見交換は有意義だったのではないかな。
- 施設の老朽化が進む中、人口構造の変化、財源等の課題等、単純に建替えるだけで本当に良いのかという課題を市民と共有できる1つの良いきっかけになったと思う。
- 行政だけで一方的にあり方を決めるものでないから松阪市の将来の小中学校について、もっと多くの一般市民の方に関心を持って、一緒に考えていけるようにしなければいけない。
- 地域で学校は大切な存在であることを再認識したと思う。多くの市民が関心を持って考えるべき。地域の人と協議していかなければならない。
- 小中児童が減少し学校の再編を考えていく必要がある中で、どの規模が適正数か考えられない。
- 学校施設の適正化に対する様々な意見が聞けた。公開しているため意見の量は少ないが仕方ない。その分、真剣な意見を聞けると思う。
- 小中学校も含めて地域の施設の複合化を検討する時期に来ている。
- 様々な意見が聞けて有意義であったが、これを今後に生かしてもらいたい。
- 学校、地域を取り巻く状況から、これまで通りの取組、組織運営では学校も地域も落ち込んでいくのは目にみえている。

意義がない

- 一般参加者が少ない。
- 「ディベーター」という言葉は適切なのか。「ディベート」しているのか疑問です。異なる意見を述べられる方はなかったように思います。

どちらでもない

- 意義を持たせるためには、この討議会の後のあり方（具体的な行動）が大事だと思います。
- 啓発としては良かったですが、市民ディベーター間で議論は少なかった。多くは意見発表だった。
- 色々条件を考慮して市が決めれば良い。
- 地域の方が持ってみえる課題・意見がもっとあれば、学校区も含めてあり方を考えていって欲しい。
- 現状だけでも伝えきれない所もあり、討議が少なかったのもっと意見を聞きたかった。

Q4：小・中学校施設の適正化に取り組む必要があると思いますか。

必要だと思う	必要ない	なんとも言えない	無回答
30人	0人	4人	3人

◎理由

必要だと思う

- 休廃校などの学校は大きな公共施設として後々どう利用するかは市財産をどう使うかということに繋がると思う。
- 子どもが少なくなっている状況で保護者はどのような環境で教育を受けさせたいのか（小学校と中学校で親の考え方が違うであろう）。保護者と十分話し合う必要がある。
- 学校としての機能が十分に果たせない児童生徒数に将来、いくつの学校がなくなってしまうのか考えると適正な規模を維持することは大切である。
- 生徒数と施設数のバランス、複式学級の充実等の観点からも「選択と集中」による教育サービスの向上を目指す意味でも有意義な考え方ではないか。
- 財源だけでなく、核家族世帯の増加、宅地開発により地域のコミュニティが希薄化している。高齢対策等を含め、学校を地域の拠点とするなら市民センター、公民館、出張所を含め市と市民をつなぐ窓口の役割として考える必要があるのでは。
- 松阪市民の財産であり、維持管理に税金を掛けている分、市民に還元できるものでないといけない。例えば、施設を集約するなら施設の設備を充実させ教育環境を整える等の子どもにメリットのある形が望ましい。
- 建設された時と前提条件がまったく異なるため現状維持は基本的にないと思う。
- 松阪市の予算が減少していく中で、小中学校の教育にお金をかけるためには、小規模の統廃合も必要ではないかと思う。統廃合に伴う通学のためのコミュニティバスの充実が必要。
- 子ども教育において集団ということが重要なことだと思う。多くの人間に関わって大人となって欲しい。
- 学校とは何か、それが大事で他のことに活用することは2の次である。児童・生徒のためであるというのが1番。
- 維持管理経費を抑えることは必要である。別の用途に使えるように早急に検討し、できるものは対応すべき。
- 他市のような行政主導ではなく、地域・保護者の意見をしっかりと聞きながら取り組んでほしい。
- 子ども「生きる力」をはぐくむ観点からの議論が必要。それが施設の適正化につながる。
- 多くの学校施設については、体育科ではなく本校舎の1階等の地域活用ができる方向性を早急に出していただきたい。特に学校側の意識を変えていただくことが必要である。

なんとも言えない

- 「適正化」の意味が曖昧でよく分からない。具体的な表現（統合・廃校）が必要。

Q5：その他、ご意見・ご感想を自由にお書きください。

◎意見・感想

- 有意義な議論を聞かせていただきありがとうございます。このような会を重ねていくべきだと思います。
- 未来の子どもたちが安心してしっかり学ぶことができる場をしっかりと考え、確保していただきたい。教育は松阪のまちを考えるうえで一番大切。単なるお金だけの計算ではない。古い大人のメモリアルに振り回されたくない。教員の配置（教育も含めて）が大きい課題とは思いますが、ソフト面からも良く考えていただきたい。
- 市民ディベーターの方々それぞれの立場・地域として意見を言われたが、各自が単発的に意見を言われただけで、深まりがなく残念、「討議会」にはなっていなかった。もう少し具体的なお話が聞けるのかと思っていたが、参加者が少なく、小中学校の保護者世代、お母さんの参加が欲しい。告知の工夫が必要。
- 適正化にあたっては、行政の責務として地域・保護者と十分に話し合ってもらいたい。費用対効果、経済効率が優先されるように。
- 教育行政は市が責任を持つ覚悟が必要。休校・廃校の学校は地元住民の活動の場として開放すべき（特にグラウンドは大切）
- 学校が休校・廃校になると地域が縮小することが早まる。地域のあり方も予想しながら決定をお願いしたい。
- 休校・廃校は即処分が1番良い。すべて取り壊しというトップダウンが必要。いつまでたっても処分できないから。
- 他市の行政を参考にされ自信を持って行政にあたってください。
- もっと具体的な突っ込んだ意見を期待していた。施設ありきで地域のニーズに答えられることではないので、鎌田中学校のことに前半の意見が集中していたのも残念です。
- 子どもを育てるには広い視野を持った方々との交流、ボランティア活動している様子を見る、聞くことが大切。そのような人々との交流が子どものコミュニケーション力や人間性を育てることになるのでは。
- 学校建設（ハード）は目的に合わせた施設にすることが基本。コミュニティスクールはソフトの分野で検討することが基本。
- 適正化についてのアンケートは必要であるが、調査は十分に話し合ってからスタートすべき。
- 施設の有効利用を色々な角度から考える。松阪ハイツ、美杉の魚九等を見習って体育施設、公園等になればと思う。
- 児童・生徒数が減少傾向の地域は、今後もその傾向が続くと予想される。そのような地域の学校施設と教育をどうするのか。学校は教育が第一。
- 必要な学校施設は残すべきだが、その有効活用により他の公共施設の削減は必須。教育にお金を減らす話を持ち込むなどという意見もあったが、お金は無限にあるわけではないので、避けて通れないと考える。
- 大江中学校は小規模校で素晴らしい学校と言われてきたが、地域も安心・慢心していた様に思う。いつの間にか保護者の気持ちが大江中学校から離れてしまっている状況を感じる。学校側も教育委員会も取組に地域も魂が入ってなかったかと思う。適正規模の問題は数だけの問題ではない。地域コミュニティとしての学校施設の配置にはまちづくりの視点も必要と思う。